

Social Phobia は社交恐怖か？

笠原 敏彦

Toshihiko Kasahara : Social Phobia is not Shako-Kyofu in Japanese, is it ?

<索引用語：対人恐怖，社会恐怖（社交恐怖），社会不安障害（社交不安障害）>

<Key words：homiphobia, social phobia, social anxiety disorder>

はじめに

日本精神神経学会・精神科用語検討委員会は精神神経学用語集（6版）¹⁸⁾において、social phobia は社交恐怖と、social anxiety disorder は社交不安障害と翻訳すべきであるとした。そして、社会恐怖と社会不安障害を「解説用語」¹⁸⁾では併記しながら「本文」¹⁸⁾では抹消したのである¹²⁾。また、一般にも広く用いられてきた対人恐怖の代わりに交際恐怖を推奨するかのとき表記がなされたのである¹²⁾。

本稿の目的は、対人恐怖の概念を再確認するとともに、これまで教科書、専門書、研究論文などで使用されてきた社会恐怖や社会不安障害という用語を変更することの是非について論じることである。

I. 対人恐怖は交際恐怖か

最初に、対人恐怖が交際恐怖と同義かどうか検討したい。そのほうが social phobia を社交恐怖と邦訳するのが適切かどうか理解しやすくなるからである。

精神医学事典¹¹⁾によれば、対人恐怖とは「他人と同席する場面で、不当に強い不安と精神的緊

張が生じ、そのために他人に軽べつされるのではないか、他人に不快な感じを与えるのではないか、いやがられるのではないかと案じ、対人関係からできるだけ身を退こうとする神経症の「一型」である。言うまでもなく、対人恐怖は人間恐怖ではない²²⁾。対人恐怖とは人間を恐れるのではなく対人場面を恐れるのである。

ところで、日本におけるこれまでの研究の結果、対人恐怖には表1のような「さまざまな対人場面」に応じた亜型と、表2のような「さまざまな二次的身体変化」に応じた亜型がある⁸⁾。

表1 「対人場面」に応じた亜型⁹⁾

【大衆恐怖】	大衆の前に出る状況を恐れる状態
【長上恐怖】	目上の人と同席する状況を恐れる状態
【異性恐怖】	異性と同席する状況を恐れる状態
【交際恐怖】	他者と交際する状況を恐れる状態
【演説恐怖】	人前で発言する状況を恐れる状態
【朗読恐怖】	人前で朗読する状況を恐れる状態
【談話恐怖】	他者と会話する状況を恐れる状態
【電話恐怖】	他者と電話する状況を恐れる状態
【会食恐怖】	人前で食事する状況を恐れる状態
【視線恐怖】	他者から注視される状況を恐れる状態
【正視恐怖】	他者と視線を合わせる状況を恐れる状態
【思惑恐怖】	自分が皆をしらけさせる状況を恐れる状態

表2 「二次的身体変化」に応じた亜型⁹⁾

【赤面恐怖】	人前で顔が赤く（熱く）なることを恐れる状態
【表情恐怖】	人前で顔がひきつり変な表情になるのを恐れる状態
【吃音恐怖】	人前でどもることを恐れる状態
【震え恐怖】	人前で手や声が震えることを恐れる状態
【発汗恐怖】	人前で発汗することを恐れる状態
【硬直恐怖】	人前で身体が硬直することを恐れる状態
【嘔吐恐怖】	人前で嘔吐する状況を恐れる状態
【卒倒恐怖】	人前で意識を失って倒れることを恐れる状態
【頻尿恐怖】	人前で頻回に尿意が生じることを恐れる状態
【頻便恐怖】	人前で頻回に便意が生じることを恐れる状態
【尿閉恐怖】	公衆便所で排尿できないことを恐れる状態

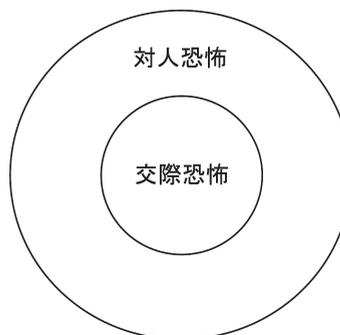


図1 対人恐怖と交際恐怖

表3 各用語の意味 (Psychiatric Dictionary⁴⁾ から引用)

Anthropophobia : Fear of man in general.
Homilophobia : Fear of sermons ; also, fear that in a group of people the others in the group might find something wrong with one's appearance, attire, or demeanor.
Social phobia : Fear of situations in which the affected person may be scrutinized by others and/or might act in a shameful fashion : included are fears of speaking in public, of blushing, of eating in public, of writing in front of others, of using public lavatories.

対人恐怖とはこのような多様な亜型の総称的・包括的病名である。確かに、交際恐怖も長上恐怖や異性恐怖などに比べるといくらかは総称的・包括的といえるが、対人恐怖に比べるとその範囲はかなり限定される。表1のなかの「大衆恐怖」「長上恐怖」「演説恐怖」「朗読恐怖」などを交際恐怖の亜型というのは無理がある。目上の人と話したり人前で講演するのを「交際」とはいわない。また、表2の「嘔吐恐怖」「卒倒恐怖」「頻尿恐怖」なども交際恐怖の亜型とはいえない。

要するに、対人恐怖と交際恐怖の関係は図1のようにになっているのである。そのため、精神神経学用語集(6版)のように、両者があたかも同義であるかのような表記や、対人恐怖よりも交際恐怖の使用を推奨するような表記は訂正すべきである。

ところで、対人恐怖の英訳は精神神経学用語集

(5版)¹⁷⁾では anthropophobia と homilophobia が併記されているが、同(6版)では、前者は対人恐怖の、後者は交際恐怖の英訳として表記されている。Psychiatric Dictionary⁴⁾によれば、それぞれの意味は表3に示す通りである。対人恐怖とは人を恐れるのではなく対人場面を恐れる、つまり fear of interpersonal situation¹¹⁾であるから、英訳としては anthropophobia よりも homilophobia のほうが適しているといえよう。

II. Social Phobia は社交恐怖か

対人恐怖が人間を恐れるのではないように、社会恐怖は社会を恐れるのではない。つまり、対人恐怖は「対人場面を恐れる」のであり、社会恐怖は「社会的場面を恐れる」のである。Social phobia が DSM-III¹⁾ や ICD-10²¹⁾ にはじめて記載されて以来、日本の精神科医はそういう意味で

表4 Liebowitz Social Anxiety Scale (L-SAS)
の項目^{3,14)}

人前で電話をかける
少人数のグループ活動に参加する
公共の場所で食事する
人と一緒に公共の場所でお酒(飲み物)を飲む
権威ある人と話をする
観衆の前で何か行為をしたり話をする
パーティに行く
人に姿を見られながら仕事(勉強)する
人に見られながら字を書く
あまりよく知らない人に電話する
あまりよく知らない人達と話し合う
まったく初対面の人と会う
公衆トイレで用を足す
他の人達が着席して待っている部屋に入って行く
人々の注目を浴びる
会議で意見をいう
試験をうける
あまりよく知らない人に不賛成であると言う
あまりよく知らない人と目をあわせる
仲間の前で報告をする
誰かを誘おうとする
店に品物を返品する
パーティを主催する
強引なセールスマンの誘いに抵抗する

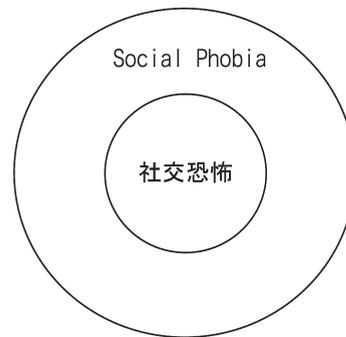


図2 Social Phobia と社交恐怖

社会恐怖という用語を使ってきたのである^{8,9)}。

これに対し、社交恐怖は文字通り「社交」を恐れるものである。社交とは「社会の交際」であるから、社交恐怖は上記の交際恐怖とほぼ同義であるといえよう。つまり、表1の交際恐怖は社交恐怖と置き換えることができる。社交恐怖とは本来は対人恐怖の一亜型なのである。

もちろん、社交恐怖は単なる「社交」ではなく「社交的場面を恐れる」として、その総称性や包括性を主張することは可能である。この点を論じるためには social phobia がどのような「場面」を想定されている用語なのか検討する必要がある。

Social phobia の定義は表3の通りである。また、その診断のために表4のような「さまざまな社会的場面」が想定された評価尺度が用いられている^{3,14)}。これらをみると、social phobia の中心となる症状は fear of interpersonal situation¹¹⁾ であり、fear of seeming ridiculous to others²³⁾

でもある。いずれにしても、対人恐怖と同じく総称的・包括的概念として用いられていることがわかる。

それでは、表4の「さまざまな場面」を総称・包括する用語としては、社会恐怖と社交恐怖のいずれが適切であろうか。

たとえば、「権威ある人と話をする」「人に姿を見られながら仕事する」「人に見られながら字を書く」「公衆トイレで用を足す」「試験を受ける」「店に品物を返品する」などは「社会的場面」ではあっても「社交的場面」とは言いがたい。

社会恐怖が social phobia で想定されたほとんどの場面¹⁴⁾を総称しているのに対し、社交恐怖が包括するのはその一部にすぎない。要するに、「社交的場面」は「社会的場面」に含まれるのであり、social phobia と社交恐怖の関係は図2のようになっていると考えられる。そのため、social phobia は社会恐怖のほうが適訳であるといえよう。

III. Social Anxiety Disorder は社交不安障害か

1994年に改訂されたDSM-IV²⁾において、social phobia に social anxiety disorder (SAD) という用語が括弧付きで併記された。SADとは social phobia とまったく同じ概念である。そして、最近ではSADのほうが各方面で広く用いられるようになってきた。その経緯については別に論じた^{9,10)}ので繰り返さないが、social phobia と

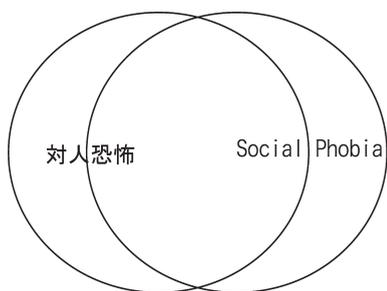


図3 対人恐怖と Social Phobia

同じ理由によって、SAD も社会不安障害のほうが適訳であることは容易に理解していただけると思う。

ところで、精神神経学用語集（6版）の改訂では、或る会員の投書が大きく影響したとのことである²⁰⁾。一体どのような投書に従って用語は決められたのであろうか。

第104回日本精神神経学会総会のシンポジウムで公表されたその内容²⁰⁾をみると、まず「社会不安障害という用語は一般の人々に誤解される」という理由でアンケート調査が実施されている。調査方法は二つある。ひとつは、某眼科診療所の待合室にアンケート用紙を置くのである。調査対象は、その用紙を自発的に読み任意で記入し回収箱に投入した人である。もうひとつは、知人に用紙を預けるのである。調査対象は、知人の知り合いで任意に協力した人である。合計69名とのことである。

調査内容は、「社会不安障害という名称からどんな症状を連想するか」と質問し、(a) 外で働く自信がなく引きこもる、(b) 人前で緊張しすぎてあがってしまう、から二者択一の回答を求めている。その結果、「やはり誤解されていたという結論を得た」とのことである。

或る会員は、この調査結果を用語変更の理由とし、適訳を求めるため某英和辞典を引用して「社会よりは社交の語義に近いので社交不安障害が良い」としている。残念なことに、用語選択の要点である総称性や包括性に関する考察はなされてい

ない。また、用語検討の資料となる専門的文献も引用されていない。Social phobia を「社交恐怖」と邦訳した精神神経学用語集（5版）さえ援用されていない。

それでは、この投書を受けて、精神科用語検討委員会はどのような議論をされたのであろうか。或る委員が歴史的経緯と個人的見解を公表⁵⁾しているが、「social phobia は社会を恐れるのではないことを強調した」としか記載がない。精神神経学用語集（6版）の「おわりに」¹⁸⁾をみると、今回の改訂のために用語検討委員会が28回開催され、その議事録はすべて学会誌に掲載されていると明記されている。ただ、残念ながら著者はその議事録が掲載された学会誌を見つけることはできなかった。いずれにしても、今回の用語決定に際しては精神医学的検討や文献考察などの専門的な議論が不十分であったように思われる。

IV. Social Phobia は対人恐怖ではないか

Social phobia は対人恐怖ときわめて類似した概念であることは明らかである^{9,23)}。それならばいっそのこと対人恐怖と邦訳してはいかがであろうか。最近も、児童精神医学の領域で social を「対人」と邦訳した文献⁷⁾がみられる。もちろん、social anxiety disorder は対人不安障害となるであろう。

こういう設問や提案が可能なのは、対人恐怖や social phobia が多様な亜型の総称的・包括的な病名だからである。ただ、結論をいえば、現時点では対人恐怖と邦訳するのは時機尚早である。

1980年に social phobia が DSM-IIIにはじめて記載されて30年経過した現在、一般には social phobia と対人恐怖は類似の概念と考えられているが、両者はまったく異なると主張する精神科医も存在する。そのため、対人恐怖と social phobia の異同を十分検討する必要がある⁹⁾。これまでの研究から social phobia と対人恐怖の関係は図3のようになっていると考えられる⁹⁾。

対人恐怖研究者には周知のことであるが、両者の異同に関する最大の問題点は、これまで対人恐

怖の範疇で論じられてきた自己臭恐怖や自己視線恐怖をどう取り扱うかである。具体的にいえば、これらを神経症圏とするか精神病圏（妄想性障害）とするかである。著者はすでにこの問題に論及し、操作的診断によって妄想性障害と診断することに異議を唱えた^{8,10)}。

ちなみに、social phobia は中国においては社交恐怖と称されているとのことである¹³⁾。中国の社交恐怖の多くは色目恐怖であるという^{13,15)}。色目恐怖とは「自分がいやらしい目つきで異性を見ているのではないかと恐れる」ものである。日本でいう自己視線恐怖の一種である。そして、特に留意すべきことは、中国では色目恐怖は妄想性障害とは考えられていないということである^{6,13,15)}。

言うまでもなく、こうした問題を解明するためには国際的な比較研究が必要である^{6,16,19)}。いずれ一定の見解が出るであろうが、それまではsocial phobia を対人恐怖と邦訳することはできない。なぜなら、そうすることによって両者の区別ができなくなり、比較研究が用語の面で混乱するからである。いずれその日が来るかもしれないが、現時点で対人恐怖と邦訳するのは時機尚早なのである。

おわりに

本稿では、social phobia は社会恐怖と、social anxiety disorder は社会不安障害と邦訳したほうがよいことを論じた。また、対人恐怖は交際恐怖と同義ではないことも指摘した。日本精神神経学会・精神科用語検討委員会には、次回の精神神経学用語集の改訂では、社交恐怖は社会恐怖に、社交不安障害は社会不安障害に変更（改正）していただきたい。また、対人恐怖と交際恐怖が同義であるかのような表記は是非とも改めていただきたい。

最後に、著者は今回の病名変更の問題を契機として、対人恐怖やsocial phobia の概念が正しく理解されることを望んでいる。そして、DSM-III やICD-10 にsocial phobia が記載されて以来、日本の対人恐怖研究にとって重要課題となった国

際的な比較研究がさらに発展することを期待している。

文 献

- 1) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Third Edition. A. P.A., Washington, D.C., 1980
- 2) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition. A. P.A., Washington, D.C., 1994, (高橋三郎, 大野 裕, 染矢俊幸訳: DSM-IV, 精神疾患の分類と診断の手引, 医学書院, 東京, 1995)
- 3) 朝倉 聡, 井上誠士郎, 佐々木 史ほか: Liebowitz Social Anxiety Scale (LSAS) 日本語版の信頼性および妥当性の検討. 精神医学, 44; 1077-1084, 2002
- 4) Campbell, R.J.: Psychiatric Dictionary, Fifth Edition. Oxford University Press, New York, 1981
- 5) 江口重幸: 障害・疾患・症状の呼称と翻訳をめぐる問題点: 精神科用語検討委員会における議論を踏まえて. 精神経誌, 110; 837-842, 2008
- 6) 藤田 定, 成田善弘: 対人恐怖, 社会恐怖とその文化的影響. 精神科治療学, 8; 1295-1303, 1993
- 7) 神尾陽子, 辻井弘美, 稲田尚子ほか: 対人応答性尺度 (Social Responsiveness Scale; SRS) 日本語版の妥当性検証. 精神医学, 51; 1101-1109, 2009
- 8) 笠原敏彦: 対人恐怖と社会恐怖 (ICD-10) の診断について. 精神経誌, 97; 357-366, 1995
- 9) 笠原敏彦: 対人恐怖と社会不安障害. 金剛出版, 東京, 2005
- 10) 笠原敏彦: 対人恐怖と社会不安障害の歴史と差異. 精神経誌, 108; 750-753, 2006
- 11) 笠原 嘉: 対人恐怖. 精神医学事典 (加藤正明, 保崎秀夫ほか編). 弘文堂, 東京, p. 427-428, 1975
- 12) 柏瀬宏隆: 精神神経学用語集改定 6 版を読んで. 精神経誌, 111; 237-240, 2009
- 13) 北西憲二, 李 時炯, 崔 玉華: 東アジアにおける対人恐怖の発見とその治療. 精神医学, 40; 493-498, 1998
- 14) Liebowitz, M.R.: Social phobia. Mod Probl Pharmacopsychiatry, 22; 141-173, 1987
- 15) 李 曉白, 作田 勉, 小森憲一: 中国人の対人恐怖症の特徴. 東京精医会誌, 16 (1); 104, 1998
- 16) 中村 敬: Social phobia と対人恐怖症—文献お

よびカナダ人自験例についての予備的考察一。精神医学，36；131-139, 1994

17) 日本精神神経学会・精神神経学用語委員会編：精神神経学用語集（5版）1989。日本精神神経学会，東京，1989

18) 日本精神神経学会・精神科用語検討委員会編：精神神経学用語集（6版）2008。日本精神神経学会，東京，2008

19) 岡 一太郎：対人恐怖と社会恐怖の比較文化的研究—日独の患者における視線体験の相違—。精神経誌，111；908-929, 2009

20) 豊嶋良一：英語から翻訳された病名呼称用語は妥

当だったか—「社会恐怖（社会不安障害），行為障害，外傷後ストレス障害」の場合。精神経誌，110；825-828, 2008

21) World Health Organization: The ICD-10 Classification of Mental and Behavioural Disorders; Clinical Descriptions and Diagnostic Guidelines, Geneva, 1992, (融 道男, 中根允文, 小見山 実監訳: ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診断ガイドライン—。医学書院，東京，1993)

22) 山下 格：対人恐怖。金原出版，東京，1977

23) 山下 格：社会恐怖—東と西。精神経誌，104；735-740, 2002
